

企業 Companies Interview インタビュー



苫小牧工水 北海道企業局の工業用水を使っています。

JX金属苫小牧ケミカル株式会社 様

JX金属苫小牧ケミカル株式会社様は、エネルギー・資源・素材の安定供給を使命として掲げるENEOSグループにおいて、資源・製錬から、電子材料の製造・販売、さらには使用済み機器の活用によるリサイクルまで、グローバルに事業を展開するJX金属株式会社の下で、高度な金属製錬技術と長年にわたって培った産業廃棄物処理の技術・経験を活かし、環境リサイクル事業の推進に幅広く取り組まれています。



代表取締役社長
森明 秀行様

Q ENEOSグループの一員として、また、JX金属株式会社傘下企業としての御社の位置付けをおしえていただけますか。

A 弊社は、ENEOSグループの中核会社であるJX金属株式会社の100%出資会社です。
JX金属は、資源の開発・製錬から、IoT、AI化が進化する社会に欠かせない先端素材の製造・開発、さらには使用済み電子機器からのリサイクルまで、銅・レアメタルを中心とした非鉄金属に関する一貫した事業展開をグローバルに行っており、その中で弊社は低濃度PCB廃棄物等の産業廃棄物無害化処理を主体とした環境リサイクル事業を担っています。

Q 多岐にわたる事業を展開されていますが、主にどのような用途で工業用水を利用されていますか。

A 主に、急冷塔及び洗浄塔という排ガス処理設備で使用しています。

産業廃棄物処理事業で廃棄物を高温焼却処理する際に発生した排出ガスに工業用水をスプレー（噴霧）することで排出ガス温度を急速に冷却させることにより、有害であるダイオキシン類の再生成を防ぐことに加えて、排ガス中に含まれる不純物を取り除き、排出ガスを適切に無害化することに使用しています。



Q 脱炭素社会実現に向けた産業間連携が苫小牧地域で進められていますが、御社として今後どのように取り組まれるご予定でしょうか。

A 産業廃棄物処理事業では、廃プラスチック類等の可燃物のエネルギーを効果的に利用することで化石燃料の使用を低減しています。
次期中期経営計画では、広い構内の土地を有効利用し、太陽光発電による自然エネルギーの活用を予定しており、工事着工に向けた調整を行っています。

Q 前身である会社の設立から数えると50年以上苫小牧市で操業されてきましたが、地域としての魅力などについて、最後にご紹介ください。

A 北海道南西部の太平洋に面した苫小牧市に弊社があります。
札幌市などの都市圏に近く、道外との流通の面においても、「海」は北海道屈指の苫小牧港を有し、「空」は新千歳空港と近接しており、非常に恵まれた立地条件にあります。

1971年の設立当初は、硫酸製造や製鉄原料の生産を中心に取り組んでいましたが、その後、時代の変化に合わせて事業内容を変更し、保有する設備や培ってきたノウハウをいかして、今に続く「環境リサイクル事業」を行っています。

この事業を通じて地域社会に貢献できればうれしく思います。

